北海道 高Ｐ連だより

〒060-0005 札幌市中央区北５条西６丁目１番　第二北海道通信ビル７F
TEL（011）232－0007　FAX（011）232－0006
URL：http://www.hokkaido-koupren.com/

今号の内容

▶シリーズ北の志
・別海高校
・ニセコ高校
・利尻高校
・留萌千望高校
▶高校生と語るつどい
▶定通生徒生活体験発表
▶支部だより

北海道利尻高等学校

利高祭の仮装パフォーマンス

北海道別海高等学校

根室共進会で１位

Heart to Heart 北の志

―ひたむきに頑張る君たちを応援したい―

北海道留萌千望高等学校

伝統の応援歌の披露

北海道ニセコ高等学校

海外見学旅行YTLホテルスクール（マレーシア）

北海道別海高等学校

校長　髙橋尚紀

本校は、昭和25年に開校しました。現在、普通科、酪農経営科と全国で5校にしかない農業特別専攻科が設置されています。平成19年度と20年度に文部科学省のコミュニティ・スクール推進事業の指定を受け、平成24年度から道立高校として唯一のコミュニティ・スクールとなりました。『地域に開かれた活気ある学校を創造する』を方針として、地域とともに歩む学校づくりをすすめています。

コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会の置かれた学校のことを指します。学校運営協議会のメンバーは、保護者や地域の方々、学識経験者です。コミュニティ・スクールは、学校運営や学校の課題に対して、広く保護者や地域住民の皆さんが参画できる仕組みです。本校のコミュニティ・スクールの取組の一部を紹介します。

地域の協力による実習

ＪＡやホクレン、農業普及センター、農業試験場等の関係機関と連携し、地域の農家のもとで酪農経営科の生徒が実習を行っています。

海外研修

町や関係機関、本校ＯＢ等で構成された「酪農後継者を育てる会」から支援を受け、酪農経営科のカナダ海外研修、農業特別専攻科のニュージーランド研修を実施しています。

交通安全街頭啓発活動

別海町、中標津警察署、別海町集落の協力を受け、国道を走る車のドライバーに牛乳等を配布し、交通安全を呼びかける活動をしています。

大学視察研修

別海町役場商工観光課と中小企業家同友会の支援を受け、2泊3日の日程で札幌や釧路で大学視察研修を実施しています。

ミニ人間ドック

町の支援を受け、本校1・2年生の希望者及び3年生全員を対象に、血圧、血液検査、心電図、身長、体重、腹囲、尿の各検査を実施し、検診後、結果説明会を開いています。

職業理解教育

「もっと知りたい○○のこと」（○○には職業分野たとえば医療スタッフなどが入る）を企画し、地域で働く人からの説明を受ける機会を設けています。

北海道ニセコ高等学校

教頭　山城　誠

本校は昭和23年に北海道倶知安農業高校狩太分校として開校し、昭和39年に北海道ニセコ高校と改称しました。平成2年には全国で唯一の緑地観光科の認可を受け、現在は昼間定時制課程、緑地観光科として農業科学コースと観光リゾートコースの2つのコース制を導入して地域に根ざした特色ある教育活動を展開しています。

●充実したインターンシップ

2・3年生はインターンシップとして6月末～7月初めにかけて8日間の就業体験を実施しています。2年生の農業科学コースは余市町のトマト農家において7泊8日の泊まり込みの実習を実施しました。また、観光リゾートコースでは、ニセコ町内の6軒のホテルでの実習を行いました。3年生は卒業後の進路志望に応じた実習先で、より専門的な実習を行っています。このことにより、イメージしていた職業と実際に就職した際のミスマッチを防ぐことで離職率の低下に繋げたいと考えています。

インターンシップ

●海外見学旅行の実施

平成23年度から、国際環境都市を目指すニセコ町の支援を受け、国際的な視野の育成や英語コミュニケーション能力の育成を目的にマレーシアへの見学旅行を実施しています。

今年度は10月30日～11月4日の日程でクアラルンプールやマラッカでの見学やＹＴＬホテルスクールでのホテル体験実習を行いました。また、学生との交流会では英語による研究発表を行いました。

●花・野菜苗販売会

5月第3土・日の2日間、丹精込めて栽培した花壇苗や野菜苗の販売会を実施しています。毎年、町内をはじめ、近隣町村から大勢のお客様が来校し、販売開始前から長蛇の列となりました。また、会場において4月14日に発生した熊本地震への募金を呼びかけ、総額72,013円の募金が集まり、現地に送金しました。

●交通安全大会

交通安全大会は40年以上続く本校の伝統行事で平成15年に北海道社会貢献賞、平成21年には内閣府国務大臣より表彰を受けています。この活動は全ての町民が事故のないまちづくりを推進するために、幼児センターや小・中学校、町内や近隣の事業所を訪問して交通安全宣言や生徒が制作した標語入りポスターの掲示依頼等を行っています。また、町内2カ所で交通安全街頭啓発を実施してドライバーに交通安全を呼びかけました。

この他にも地域に根ざした様々な取組を実施しておりますので、本校ＨＰをご覧ください。

交通安全大会（事業所訪問）

北海道利尻高等学校

教頭　橋本　功

本校は、町立高校として昭和32年に開校（昭和40年道立移管）した全日制普通科、商業科各1間口の学校です。校訓である「醇風剛健」のもと、純粋で温かく、人間味のある豊かな心を持った人間、困難にも打ち克つ心と体を育てる教育を実践しています。

1　ふるさと教育

これまでの自然体験を中心とした取組から、今年度より新しい「ふるさと教育」を実施しています。

「全島一周」給水ボランティア

①地域主催の悠遊覧人Gへの参加による「全島一周」、②地域・保護者と連携した「利尻山登山」、③地域を学ぶ、各教科における「ふるさと学習」、④地域行事への参加やボランティアを通じた「ふるさと貢献」、⑤礼文島での「宿泊研修」、⑥地域講師による「ふるさと伝習」、⑦利高祭における「ふるさと展示」、⑧地域資源を生かした「商業教育」、⑨マクドナルド氏の功績を生かした「国際理解教育」の9分野の取組を、保護者の方をはじめ、地域、関係団体の協力を得ながら行っています。取組を通じて、ふるさと利尻を誇りに思う気持ちと広い視野をもち、未来をたくましく生きるとともに地域の創生、発展に貢献する生徒を育てたいと考えています。

2　小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業研究指定校

平成27年度から3年間の研究指定として利尻町の小学校（2校）、中学校（2校）とともに、発達の段階に応じた体系的なキャリア教育の推進に向けた研究を行っています。

「キッズビジネスタウンりしり」

12年間を見通したキャリア教育の計画やキャリアノートの整備、小学生と高校生が販売実習を行う「キッズビジネスタウンりしり」など学校間の連携により利尻を愛し、夢と希望に向けて挑戦する利尻島の生徒の育成に努めています。

3　ＰＴＡの取組

ＰＴＡの活動としては、奉仕活動として花植えの手伝いや町内の清掃活動、夏には祭典の巡視、また前出の「全島一周」ではチェックポイントの給水・救護のボランティアも行っています。

奉仕活動（花いっぱい運動）

これらの活動を通して地域の活性化にも貢献できればと考えています。その他に、本校の伝統行事である12月のカルタ大会への参加など学校行事への関わりも大切にしています。

北海道留萌千望高等学校

教頭　佐藤　守

本校は、平成10年4月に留萌工業高校と留萌高校商業科が統合し、留萌管内唯一の工業科と商業科の併置型全日制専門高校として新設されました。校訓「英知友愛」学校教育目標「未来に翔く、心豊かなスペシャリスト」のもと、電気システム科、建設科、流通経済科、情報ビジネス科の4学科で開校しましたが、少子化や人口流出により、現在は電気・建築科（1間口40名、2年次より電気コースと建築コースに分かれる）、情報ビジネス科（1間口40名）の2学科2間口となっています。

なお、留萌市内の高校再編により、本校は平成30年に留萌高校と統合され、現在の留萌千望高校を校舎とした新しい高校がスタートします。新設校の学科編成は、普通科（4間口160名）、電気・建築科（1間口40名、2年次より電気コースと建築コースに分かれる）、情報ビジネス科（1間口40名）の3学科6間口となっています。

学校祭　行灯行列

『本校のＰＴＡ活動』

1　ＰＴＡ組織

留萌千望高校ＰＴＡの活動は、「家庭と学校との緊密な連携」「学校教育活動への理解と援助」を重点目標として次の4つの組織で活動しています。

（1）事業部
（2）研修部
（3）安全指導部
（4）学年部

2　特色あるＰＴＡ活動

開校時より、学校はもとより地域との連携を強化し、「開かれた学校づくり」を進めてきました。ＰＴＡ活動は非常に活発で、年2回の交流会をはじめ、学校行事への参加協力、交通安全街頭指導等を行っています。7月実施の学校祭（千望祭の伝統的な行灯行列では保護者の行灯を1基作成し生徒と共に行進を行っています。

また、千望祭一般公開日には本校生徒開発商品「もっちり米パスタ」を使用し商業研究部が考案したレシピを使いＰＴＡのお母さん方が調理したスパゲティーを販売し、好評を得ています。

体育祭（怒濤鍋作り）

体育祭では、巨大な鍋で怒濤鍋（豚汁）を生徒に振り舞います。他にも、マラソン大会では給水などを実施し、保護者も含め地域全体で各種行事をサポートしています。

このように学校行事に積極的に保護者が関わることにより、学校全体の連帯感を高めています。

マラソン大会（給水活動）

校生と語るつどい」

根室支部　羅臼高等学校

テーマ

～21世紀をどう生きるか～「スマートフォンのマナーをみんなで考えてみよう」

根室支部主管による「高校生と語るつどい」は、9月24日(土)～25日(日)にかけて、羅臼高等学校を当番校として実施しました。

当日は根室支部加盟校7校から生徒、保護者、教員、道高P連役員を含め72名が集い寝食をともにしました。参加した生徒達は協働作業を通し、物怖じしないコミュニケーション力と相互理解を養う2日間を過ごしました。

テーマは「スマートフォンのマナーをみんなで考えてみよう」と「お互いの地域（ふるさと）のことを知ろう」です。2年ぶりの開催となったこの事業を、来ていただいた生徒や保護者の方々に満足してもらう内容にしようと羅臼高校ＰＴＡ役員と先生方との協議の末にこのテーマが決まりました。

初日、大型バスに揺られ遠くは根室から約4時間かけて羅臼高校に到着しました。開会式に引き続きオリエンテーションとしてアイスブレイク「自己紹介キャッチボール」等を行い、参加者は声を出し体を動かす中で笑顔がこぼれ、場の雰囲気が和みました。

講演では北海学園大学の山田誠治教授に、「ネット社会の進展と人間関係の変容」という題でお話をしていただきました。山田先生はネットが及ぼす人間関係のひずみについて触れ、改めて一人一人がスマートフォン等の使い方を見直す機会となりました。また目と目を合わせ、語ることが人間にとって大切なことを学びました。次に千島歯舞諸島居住者連盟、語り部羅臼支部顧問の高岡唯一氏を迎え、「我がふるさと、北方領土返還への思いはやまず」と題して、当時の写真を交えての講演をいただきました。多楽島で生活していた10歳の時、ロシア兵が土足で家へ上がり込むことなど、幼い時の島での生活を回顧した内容でした。今は語り部としてロシアを憎むのではなく、良い友好関係を築くよう努めているとの話に生徒達は自分自身何ができるかを考えたことと思います。

その後の研修会Ⅰでは参加者が6人のグループに分かれ「スマートフォンのマナーをみんなで考えてみよう」というテーマで語り合いました。参加者はスマートフォンの使用時間、用途、危険性、イラッとした時のことなど他者の意見に熱心に耳を傾けていました。2日目の発表会に向けて意見交換をした後、模造紙にまとめました。

宿泊先は「羅臼の宿まるみ」。海の幸をふんだんに取り入れた夕食には参加者全員が舌鼓を打ちました。夕食後各高校が用意した「高校及び地域紹介」では自分達のふるさと自慢や高校の特色を他地域の人に向けて発表し、根室管内の距離が縮まり楽しい交歓会となりました。

2日目の研修会Ⅱは、研修のまとめと発表です。それぞれの班で工夫して書いた模造紙を参加者の前で発表します。マナー3か条や円グラフ、図等にしてわかりやすく発表していました。また各校の生徒達は堂々と伝えていました。「依存しすぎないようルールをつくる」、「スマートフォンを使っても使われないこと」、「公共の場は特に考えて使用する」、「だらだら使用しない」、「人の気持ちを思いやる」など他者に伝えようとしている姿がとても印象的でした。

最後に羅臼昆布倉庫を見学し、昆布が商品になるまでの数多くの工程について説明を受け、仕上げの「ひれ狩り」体験をしました。自らが成形した昆布のお土産に参加者は満足していました。2日間という短い時間でしたが管内の交流ができた貴重な体験をさせていただきました。また、ご協力をいただいた多くの方々に感謝の気持ちを込めて根室支部の報告とさせていただきます。

平成28年度「高校

空知支部　滝川西高等学校

テーマ

「ネット社会の利便性と危険性」

本年度の「高校生と語るつどい」は空知支部が主管、滝川西高校が当番校として、10月1日(土)に開催いたしました。今回は管内14校から生徒、教員、保護者合わせて88名の参加者を得て、深川市にある「ネイパル深川」を会場として行われました。

午前9時30分より開会式を行い、午前は研修として「木のキーホルダー制作」、「オブジェ（モリのお友達）制作」、「モリのフォトフレーム製作」と3つに分かれたものづくり研修を行いました。

自然の素材を生かしながら自由な作品を作るという難しさはありましたが、それぞれ個性豊かな作品が出来上がりました。

午後から実施する全体・分科会打合せを行った後に、昼食、午後1時30分より講演会を行いました。講師は札幌市立大学准教授、武田亘明氏による「情報社会を生き抜く！ＩＣＴの積極的な活かし方」という演題のもとお話しいただきました。話の流れとしては大きく5つで、①社会のグローバル化・情報化とメディアリテラシーでは、マスコミ報道と市民メディアなどの現状、情報教育についての3つのＣ〔情報創造力（Creative）、情報を読み解く力の育成（Critics）、芸術を豊かに楽しむ力（Culture）〕、情報安全対策の分野について、②メディア空間に生きる青少年では、数値化した青少年ネット生活のまとめについて、③社会の変化への対応では、不確実性の加速する社会を生き抜く力について、④変わる学力・求められる能力では、アイディアの創り方、思考方法、プライベートブランドの構築について、⑤地域教育力の活性化、知の里山ネットワークでは、人材育成や学校を核とした地域力強化プランなど、スマートフォンの利用も含めた、ＩＣＴの活かし方についてお話しいただきました。

その後、10の分科会に分かれてスマートフォンと私たちをテーマに研究協議を行いましたが、おおよそスマートフォンの利便性と課題を中心テーマとした分科会と、スマートフォンの利用と人間関係の問題をテーマとした分科会の、大きく二つに分けることができます。

スマートフォンの利便性と課題をテーマとした分科会では、情報通信のツールとして便利な反面、依存性やそれに伴う睡眠不足、金銭面での問題をなくすために、家庭においてのルールづくりが大切であることや、歩きスマホなどの危険性を取り上げた分科会もありました。スマートフォンの利用の影に隠れる危険性としては、ネット詐欺を回避するために怪しいサイトには近づかず、周囲の人に相談することの大切さも話題となりました。また、フェイスブックなどによる個人情報の流出にも注意が必要なことについても話し合いが進みました。

スマートフォンの利用と人間関係をテーマとした分科会では、ネットには匿名性があり、悪口などの書き込みトラブルが発生しやすいこと、スマートフォンのコミュニケーションは短文となることが多く、文章の読み取り方が異なることによる誤解が生じやすいことなども話し合われました。家族や友人がフェイスツーフェイスで自分の気持ちをしっかりと伝えるコミュニケーションの在り方の大切さも確認されました。

分科会の報告に引き続き、閉会式を行い全日程を終了しました。また、後片付けでは、参加者の生徒の皆さんが率先して手伝ってくださったことに感心いたしました。

最後になりますが、全日程を通して、ご不便や行き届かないことがあったかと思いますが、無事に終えられましたことに感謝申し上げまして、本事業の報告とさせていただきます。

第60回道高校定通生徒生活体験発表大会

最優秀賞

わたしのそばを、あなたのそばに

北海道幌加内高等学校　三年　岩井利菜

今年こそ、優勝旗を奪還せな。

平成二十八年八月十九日、第六回全国高校生そば打ち選手権大会。

ライバル校が打ち終えたそばをみて、私たちは優勝を確信した。

「第二位　北海道幌加内高等学校」

「え……なんでなん？」

私の心の中は、審査に対する疑惑の思いでいっぱい。大人なんて、やっぱりそんなもんやんな……。

小学生のころ、母子家庭の私はいじめに遭った。無視されたり、物を隠されたり。

先生は気づいてくれへんし、ママは自分のことで精いっぱい。だから誰にも相談せえへんかった。

中学生になると、一緒に絡む友達ができたが、その友達が同級生とトラブルを起こし、私は一人置いていかれた。

「岩井さんにやられました」

「お前がやったんか？」

「なんもしてへん！なんで信じてくれへんの？」

「お前の根性ひねくれてるんちゃう？」

そう先生に言われた私は、教室を飛び出し、家へ帰った。

「お前が悪いんちゃうの？」

ママの再婚相手からも信用されへんかった。

「大人は信用でけへん、先生なんて大嫌い」そうして、私は心を閉ざした。

揉め事を起こした私は、友達と一緒に大阪の高校へ行くことを継父に反対された。ママは兄が通った北海道の幌加内高校を勧めてきた。

「他に行きたい高校もないし、それでもええかなぁ」

はるばる北海道へ来てみたが、やっぱり他人を信用できず、クラスメイトと上手くいくことはなかった。優しい先輩方のタバコに付き合って、運悪くバレて停学。「あー、なんか怒ってんねんなぁ」先生に言われたとおりの反省をした。先生も友人も、自分自身も信用でけへん日々を送った。

そんな私に転機が訪れた。ママに将来の相談をすると、めっちゃ幸せそうに結婚式の思い出を話してくれた。ママはいつも辛そうやったけど、この思い出があるから頑張れるって言っていた。私も人を幸せにできるようになりたい。初めて将来の夢を持った。体中にエネルギーがこみ上げ、なんでも頑張ってみようと決意した。

二年生になって、三つ決め事をした。「授業を真面目に聞く」「先生に敬語を使う」「とにかく頑張る」すると、いやいやだった勉強も、学校生活も、だんだん楽しくなってきた。成績は学年二位まで上昇。担任や先生、ママからたくさんほめられて、とても嬉しかった。「そば段位認定会に向けて、道場行ってきなよ」ちょっとお気に入りの先生から言われ、せやな、練習しよか、と放課後そば道場へ向かった。

「なんなんこれ！　むっちゃすごいやん！」

全国大会三連覇を狙うそば局の練習風景やった。

団体戦は、水回し、練り、延し、切りの工程を交代しながら打つ。無駄のない動き、思わず見とれる技術、チームプレイで連携、何よりも運動系の部活並に熱くなれる。そんなところに私は惹かれた。

それから私は、毎日道場に通い、そば打ちの技術をひたすら磨いた。

意欲を認められ、全国メンバーに選ばれた。初めての大会は、少し緊張したけれど、とにかく楽しかった。結果は第二位。来年は必ず優勝したる、と心に誓った。

先輩の悔しさを受け継ぎ、三年生の私は局長になった。目指すは全国大会優勝！しかし、メンバーは他の活動が忙しく、全然練習に来なくなった。「なんで来うへんの？　やる気あるん？」しかし仲間は、「私だって生徒会もあるし、利菜先輩みたいにそばだけじゃない」放課後、一人ぼっちで練習する私。私ばかりと思い始めたら、そばのレベルが下がり始めた。

顧問の先生が、合宿練習にそば名人を招いてくれた。名人の打つそばは、とてもきれいで、心からそばを打ちたいと思った。それは他のメンバーも同じだった。大会直前、四日間の最終合宿。朝から夜まで十二時間、仲間とともにひたすらそばを打ち続けた。バラバラだった気持ちがやっと一つに。これ以上ない、最高のチームで全国大会に向かった。

本番ではメンバー全員ノーミス。今までで一番の出来。会場の人たちが私たちのそばを見て、次々と声をかけてきた。「さすが幌加内高校！」

審査を待つ間、湧き上がる大きな期待。しかし、結果は二位。会場がざわついた。理解でけへんかった。優勝がライバル校と言われた時は、ホンマに悔しさがこみ上げた。「大人は信用でけへん」そんな昔の自分が、顔を出しそうになった。

暗い気持ちで幌加内に帰ってきた私を、先生や友人は、あったかく迎えてくれた。「生中継見たよ。凄かったね」「最高のそばが打てたね」悔しさでささくれた私の心が、優しさの潤いで満たされた。

「先生ってこんなにええ人やっけ？」

私を信じて、応援してくれた人たちの思いが、私を再び前向きな考えに変えてくれた。もうひがんだ考えの私はいない。私はもう自分に負けない！

九月、そば打ち三段位認定会幌加内大会。全国から集まった六十人以上の大人の参加者を勝ち抜き、晴れて優秀賞！その活躍が、ドイツでそば店を経営している方の目に留まり、十月二十四日から三週間、デュッセルドルフでインターンシップ！

日中はお店で接客、夜はそば打ち特訓。海外産のそば粉ではまだまだうまく打てないけれど、「初めてにしては上出来」ってほめられた。次の目標は、世界中の方々にもっと私のそばを食べてもらうこと。

ドイツで改めて気づいた。私が心を込めて打ったそばは、私のそばにいる皆を笑顔にしていた。

私の中に、人を幸せにできる力がある！

私のそばの幸せより、他人のそばに幸せを与えられる大人になりたい。

そばが教えてくれたこと。わたしのそばを、あなたのそばに。

「全国大会では奨励賞を受賞」

第二回理事会報告

日　時　平成28年11月26日
場　所　ライフォート札幌
出席者　役員・理事31名

＜委員会報告＞

※理事会前に開催された委員会の審議内容等を各委員長から報告。

・総務委員長
留萌・海東剛哲理事
・研修委員長
石狩・山﨑千鶴理事
・健全育成委員長
根室・小野哲也理事

＜審議事項＞

一　平成29年度事業日程

※本年同様、第二回理事会は11月末に開催。支部事務局長会議は４月のみ開催等。

●提案説明後、承認。

二　全道大会

(1)空知大会(平成29年度)
・平成29年６月10～11日
・主管校　滝川西
(2)十勝大会(平成30年度)
・平成30年６月16～17日
・主管校　帯広農業

●提案説明後、承認。

三　平成29年度選考委員会委員選出

※例年、役員・理事退任者を中心に選出しているが、現時点では退任者を特定できないため、委員選出を会長に一任。

●提案説明後、承認。

四　次年度事務局体制

※退任する局長の後任を補充せず、安全互助会局長の兼務とすること及びそれに伴う賃金改正を行う事務局職員就業規程の一部改正を提案。

●理事より加重負担への懸念について意見があり、新井田副会長が「業務量はふえるが効率化を推進して過重負担にならないようにする」旨説明し、承認。

五　平成28年度道高Ｐ連決算見込・平成29年度暫定予算案

※次長が資料に基づいて詳細に説明。

●提案説明後、承認。

六　各種ローテーション

●提案説明後、承認。

＜報告事項＞

一　全国状況等報告

(1)年間行事日程
(2)静岡大会(平成29年度)
・平成29年８月24～25日
・第四分科会発表校
室蘭清水丘高校
・旅行取扱業者未定
・参加費

※会長が全国高Ｐ連から依頼された大会参加費への意見を求めたが、理事より「参加費に関わり、開催地区の負担の在り方も論議しなければならない。」との意見があった。

二　広報小委員会報告

※種田副会長が「道高Ｐ連だより」の発行回数、部数、ホームページの活用等、委員会の活動について報告。

三　賠償制度について

※全国高Ｐ連倍賞責任補償制度について、東京海上日動・加藤篤氏が説明。その後、若干の質疑応答。

＜諸連絡等＞

一、北海道高等学校安全互助会関連事項
　局長から、これまでの給付状況の中にＰＴＡ会員の負傷が３件あったこと、生徒の負傷の発生の場面では、部活動中が70％、授業中が20％となっており、傷病別では骨折が27％で最も多く、続いて靱帯損傷、捻挫、打撲・挫傷と続くこと、部位では膝、足首などの下肢が50％と最も多いことなどについて説明した。また、29年度に向け、共済事業の手引、安全互助会だよりの送付が２月上旬となること、29年度の加入の推進について要請があった。

二、支部長がかわる支部への連絡、総会代議員の選出及び代理出席などについて説明を行った。

第67回 全国高等学校PTA連合会大会　静岡大会

大会テーマ
メインテーマ
「有徳の人」づくり

サブテーマ
～未来のために行動する「一人」を育てよう～

●　日　　時　平成29年８月24日(木)・25日(金)

大会会場

●１全体会
静岡県小笠山総合運動公園エコパ
袋井会場：エコパアリーナ
袋井市愛野2300－１　＜JR愛野駅南口から徒歩15分＞

●２分科会
(1) 袋井会場（２会場）：**静岡県小笠山総合運動公園エコパ**
エコパアリーナ（全国高Ｐ連研究発表）・サブアリーナ（第４分科会）
(2) 静岡会場（２会場）：**静岡市民文化会館**
大ホール（第３分科会）、中ホール（特別第１分科会）
(3) 清水会場（１会場）：**静岡市清水文化会館マリナート**
大ホール（第２分科会）
(4) 浜松会場（２会場）：**アクトシティ浜松**
大ホール（第１分科会）、中ホール（特別第２分科会）

第67回 北海道高等学校PTA連合会大会（空知大会）

●期　　日　平成29年６月10日（土）・11日（日）
●会　　場　滝川文化センター　他
●大会主題　**「身近な人と結ぶ信頼の絆」**

〔趣　旨〕　「善意」と「悪意」が平然と混在する仮想空間で迷子になり、時間を消費し、トラブルを起こし、人間性を問われる人が増えています。
　子どもたちの健全な成長を願う私たちは、顔の見えない仮想空間ではなく、お互いの顔が見える家庭や学校等で培われる「身近な人と結ぶ信頼の絆」こそが子どもたちの温かい支えになるという共通の思いを胸に、本音で語り合いましょう。

大会メッセージ

「母なる大河石狩の流れる空知野から
育もう未来の主人公である子どもたちへの熱い想い」

支部だより

萌部留支

高校生が担う地域資源による交流人口の拡大

北海道高等学校ＰＴＡ連合会 留萌支部長　海東剛哲
（北海道留萌高等学校ＰＴＡ会長）

留萌支部は離島を含む8市町村に7校があり、それぞれが多彩な地域性のなかで農業・商業・観光振興など生徒達の将来を見据えた多様な学校運営を行っています。

過疎化・少子化は大きな問題であり、地元での雇用も決して多くはない厳しい地域ですが、海や里山をフィールドに体験プログラムで都市圏の子ども達を受け入れる農山漁村交流で地域の活性化が進んでいます。

始まりは東日本大震災で外での活動が制限されていた福島県の子ども達に「あたりまえの夏休み」を過ごしてもらおうとスタートした長期サマーキャンプ。この事業で長期間親元を離れて生活する子ども達の心と体調のケアを担ってくれたのが、留萌支部の高校生達です。

当初は環境ＮＰＯ団体の活動に参画している大学生が子ども達のケアを担当していましたが、社会教育主事会や高Ｐ連支部のネットワークにより各高校に生徒の参加を呼びかけ、毎年10名ほどが事前講習から参加して、目的を理解し目標を設定し、プログラムを提供する地域協議会のメンバーや大学生とともに宿泊や食事のメニュー考案など準備から携わっています。一週間のプログラム期間中は子ども達のリーダーとして、生活やコミュニケーションについて不安の解消・体調面のチェックなど、安心して伸び伸びと夏休みを外で過ごすために子ども達と繋がり、大人との橋渡し役としての重要な役割を果たしてくれます。

全日程参加できない生徒も、それぞれプログラムを実施する地域での受入団体スタッフとして参加できます。事業に係わりを持つことで、違う高校の生徒と交流を持ち、それぞれの地域資源を体感し将来を語り合う時間ができます。

高校を卒業して多くの生徒が生まれ育った場所を離れていきますが、自分を育んだ場所がどれほどのポテンシャルを持っているのか意外と知らないものです。

子ども達の笑顔でその可能性を知り、地域愛を深めれば、たとえ離れた場所を生活の拠点としても、故郷との繋がりをより強く保ってくれるはずです。

現在は関東圏や札幌・旭川など道内の子ども達も多く参加し、リピーターとして参加する子ども達も、頼もしいお兄さんお姉さんとの再会を楽しみに留萌を訪れます。

子ども達の笑顔が高校生の自信となり、地域の将来に明るい希望をもたらしています。

振部胆支

有意義な研修を目指して～「腰塚勇人さん」の講演会を行いました～

北海道高等学校ＰＴＡ連合会　胆振支部長　戸井肇
（北海道室蘭清水丘高等学校ＰＴＡ会長）

胆振支部は胆振総合振興局管内の公立20校、私立2校の計22校で組織されています。

去る5月28日(土)、北海道高等学校安全互助会事務局次長の青陽哲也様を来賓にお迎えし、支部総会がおこなわれ、前任の苫小牧総合経済高校から室蘭清水丘高校へ2年間の任期を引き継ぎました。私自身は子供が今年度で卒業となりますので、1年間の任期となります。

10月15日(土)に胆振支部健全育成事業として、ＰＴＡ会員約50名参加のもと腰塚勇人先生をお招きし「命の授業」というテーマで講演いただきました。

腰塚先生は元中学校の体育教師をしていましたが、2002年にスキー中の転倒事故により首の骨を折り全身麻痺に陥りました。医師からの「一生、寝たきりか、よくて車椅子」という宣告に絶望し、自殺未遂に追い詰められながらも、妻、両親、主治医、看護師、生徒たち、職場の同僚などの励ましを受け、4ヶ月で担任に復帰するという、奇跡的な回復を成し遂げました。この体験から、腰塚先生は、「命の使い方」を真剣に考え、『五つの誓い』を自分との約束とします。

一つ、口は人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう…。二つ、耳は人の言葉を最後まで聴いてあげるために使おう…。三つ、目は人のよいところを見るために使おう…。四つ、手足は人を助けるために使おう…。五つ、心は人の痛みがわかるために使おう…。

参加者の中には「とても良い話だった、自分の職場の研修にも来て欲しい。」など好意的な感想が多くありました。

当日はＪＲの事故のため急遽私が先生を送り迎えをすることとなったのですが、おかげさまで車内でも貴重なお話をうかがうことができました。

今回の講演会開催にあたり、初めての試みとして、生徒にも参加の呼びかけを行ったものの、部活動等との兼ね合いから、生徒の出席がほとんどなかったことに関しては残念な結果となりましたが、次年度以降も生徒への声かけを行えればと思っています。

新年度では全国大会での事例発表の担当となっておりますので、その準備にもこれからかかって参ります。

VEGETABLE OIL INK